“D903i”のデザイン技術

荒井秀文*
山崎　聡*

Design Development Technologies for “D903i”

Hidebumi Arai, Satoshi Yamazaki

要　旨

近年，携帯電話は，通話やメールといったコミュニケーションツールとしての枠を越え，デジタルカメラに迫る機能の搭載，GPSナビゲーション，ゲーム，ワンセグテレビ視聴と多機能なビジュアルビューワへと進化している。また，その一方で，子供向け，高齢者向けの特定機能に絞り込んだ端末や，ファッション性を重視した端末等への期待が高まり，市場がより一層多様化していることが分かる。

多様化する携帯電話の開発において，ユーザー視点からの発想による将来を分析予測する技術，使いやすさを調査分析する技術，魅力的なデザインを作り上げる技術，これらを備えたデザイン部門の役割は今後ますます重要になってくる。

本稿では，事例として，㈱NTTドコモから発売している“FOMA(注1) D903i”のデザインについて，デザイン開発フローの紹介と，プロダクトデザインとインタフェースデザインの両面からの報告，さらに，今後の携帯電話のデザインの方向性について考察する。

（注1）　FOMAは，㈱NTTドコモの登録商標である。

D903iのプロダクトデザインとインタフェースデザイン

ビジュアルビューワ化が進む携帯電話において，スライドタイプは多くの点で優れたボディタイプである。

スライドタイプは，大型ワイド画面が露出していることにより，画面デザインによって全体のデザインイメージが大きく変わるため，インタフェースデザインの重要度はますます上がっている。プロダクトデザインとインタフェースデザインの高い次元でのマッチングが商品力を向上するためのポイントである。

*デザイン研究所